

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和8年度 学校だより
6 月 号
福生第七小学校
ホームページ
URL
<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>



所在地 福生市北田園一丁目1番地 | 発行責任者 校長 菅野 恭子 令和8年5月29日 発行

よりよくするために 何かしてみたい

～ 自分ごととして捉え 提案と実践を ～

校長 菅野 恭子

日差しも強くなり、雨の日の湿度とも上手く付き合うことが大切な季節となりました。最近では、1日単位で天候が大きく変わることが多いため、こまめな水分補給や汗拭きをはじめ、体を十分に動かして発散しながら集中時間をつくるなど、メリハリのある教育活動を意識しています。



よりよくするために 何かしてみたい

6月は、1学期の中で「挑戦の月」と位置付けています。4・5月で新しい環境に慣れ、自己の成長と課題が見えてきたところで、6月は「今ある課題を、自分の行動でよりよくしてみよう」と目的意識をもたせ、「こうすると良くなるのではないか」ということを提案させ、実行する取組に力を入れます。

昨年の全校朝会において、「何でだろうと考えて」という話をしたことをきっかけに、子どもたちは様々なことを「自分ごと」と捉えながら課題意識をもち、「よりよくするために、自分たちができること」を話し合い、先生に相談・提案し、実践する動きが出てきました。



その一つが代表委員会の取組です。例えば、雨の日や熱中症の危険性がある日などの過ごし方について、外で遊べないことから気持ちの発散がうまくいかずに、校舎内で静かに過ごすことが難しい子どもがいることを受け、「各教室で誰でも何人でも仲良く遊べるゲームがあるとよいのでは」「休み時間に体を動かせる場所として、体育館を学年ごとに割り振りをするのはどうか」と提案し、さらには、どのクラスも公平に安心して遊べるためにより具体的な約束づくりを子どもたちが主体となって考えました。また、校庭の使い方についても学校のきまりを見直し、「さらにこの約束を加えた方がよい」と自分たちで必要な内容を提案する動きも出てきました。

子どもたちは、担当教員に相談・提案し、教員は子どもたちの提案をサポートします。内容が明確になってきたところで、代表委員会の委員長等が校長室へ来て相談と提案をします。何かあった時に、「先生が注意してくれるからいいや」ではなく「現状を『自分ごと』として捉えて、自分たちでできる方法でよりよくしていく」という姿勢を大いに価値付けて、挑戦させます。教員は子どもたちの取組過程をよく見ているので、どのような結果になったとしても、そこから学びに気付かせて、次の挑戦につなげます。

代表委員はこのような過程を経て、全校朝会で全校児童に呼びかけます。大きなやりがいと達成感を感じることでしょう。この動きは、他の委員会やクラブ、縦割り班活動にも広がってきています。

子どもたちは教室で見せる姿と委員会、クラブ、縦割り班活動等で見せる姿と様々な表情を見せます。その都度、関わる教員も様々です。そのため、教職員は常に子どもたちの様子を共有し、よいタイミングで背中を押してあげたり、挑戦する機会を与えたりします。うまく行かない経験も学びに気付かせて次の一歩を一緒に始めます。

6月は「挑戦の月」として子どもたちが一回り大きくなることを期待し、7月の「まとめの月」では、1学期間の自己の成長を少しでも子どもたちが実感できるよう、教職員一同丁寧に指導していきます。

